

## 平成23年度第4回総合計画審議会 議事概要

開催日時 平成23年11月17日(木) 14:00～17:00  
開催場所 鳴門市水道会館 3階 第1会議室  
出席者 計34名  
審議会委員19名【秋山委員、太田委員、大西委員、川井委員、斎藤委員、篠原委員、杉山委員、高島(秀)委員、高島(正)委員、多智花委員、田中委員、中岸委員、戸田委員、橋野委員、藤村委員、村上委員、森脇委員、山尾委員、吉田委員】  
鳴門市14名【平野副市長、近藤教育長、山内企業局長、田村市民環境部長、谷経済建設部長、近藤企業局次長、松前消防長、中村教育次長、三木企画総務部副部長、事務局5名を含む】  
傍聴者1名

### 次 第

- 1 開 会
- 2 議 事
  - (1) 平成23年度第3回総合計画審議会議事概要について
  - (2) 第六次鳴門市総合計画(案)について
- 3 その他
- 4 閉 会

### 配布資料

- 【資料①】 平成23年度第3回総合計画審議会議事概要
- 【資料②】 第六次鳴門市総合計画(案)
- 【資料③】 第六次鳴門市総合計画策定に係る今後のスケジュール(案)

### 会議概要

- 1 開会。
- 2 総合計画審議会条例に基づき田中会長が議長として会議を進めた。
- 3 議事(1)について、事務局が資料①を説明後、内容の確認を行った。
- 4 議事(2)について、事務局が資料②を説明後、審議を行った。
- 5 その他、資料③を説明し、今後のスケジュールについて確認した。なお、第5回総合計画審議会は、平成23年12月1日(木)9時30分より共済会館3階大会議室にて開催することとなった。
- 6 閉会。

※主な質疑事項等、議事録の概要は別紙のとおり。

## ◆◆議事(1) 平成23年度第3回総合計画審議会議事概要について◆◆

## 田中 会長

「第3回総合計画審議会議事概要」についてご確認いただき、気付いた点等があればご指摘いただきたい。

## 委員

5 ページの真ん中辺りに「90 ページ」から始まる部分で、「一番下の自治振興会～」の「一番下」という表現は、地元の意見を大事にしなければいけない協働ということから、上下はないのでやめてほしい。その直前の「民間施設等に下りてくる」の「下りて」という表現もひらがなに変える。8 ページの「144 ページ」から始まる部分で、「市がどう使うかと下りて」「市の方にもし下りて」の「下」をひらがなに直してもらいたい。

## 田中 会長

4 ページの会長の発言に「基本目標 4 つには～」という箇所があり、「例えば「うきうき」があっても意味は十分に通じる。」という記述がある。文言の表記の問題だが、前後の文章の意味がわかりにくいので、事務局で検討いただきたい。

ではご指摘いただいた箇所は修正させていただき、市の公式ホームページに公開させていただく。

## ◆◆議事(2) 第六次鳴門市総合計画（案）について◆◆

## 田中 会長

総合計画の序論にあたる部分は、既に第2回の会議でご審議いただいております、その中で出していた意見をご意見を今回、中に取り入れた形である。枠組みに、今回文言化して、こういう序論となっている経緯がある。

序論部分は大きく2つの章になっており、第1章に策定の趣旨として目的等が説明され、第2章に策定の背景ということで3つの側面から分析されている。

一括してどこからでも構わないので序論部分に関してご意見があればどうぞ。

## 委員

8 ページの下から6行目くらいだが、「「共助」の精神で活動する」とあるが、「共助」と言うと防災が一番に頭に浮かぶ気がする。まちづくりでもいいのだが、防災を入れてはどうか。

7 ページの(4)の上「こうしたなか、一人ひとりの～」の箇所に「協働の理念のもと」とある。絆の再確認とあり、「協働」という言葉がテーマになっている。住民の立場でいうと「公助」という感じだが、行政の立場から言うと「両方一緒に」というので共助となると思う。防災の津波地震のところは「公助」の方がピンとくるが、ここでは絆の再確認だけではなく、実際に行動しているところで「共助」である。「共助」と「協働」という言葉の整合性を検討していただきたい。

## 委員

よく書けているが、何も元気さがない。頑張る企業や人を応援するまちだという力強さが感じられず、そのあたりが物足りない。鳴門や徳島の気風を代表するようなワンフレーズがいい。例えば、会津若松は「会津魂」、静岡県浜松は「やらまいか」のような気風が残念ながら無い。行政なので弱者への労りは必要であるが、それは必要条件であり十分条件ではない。会社に社風があるように、やる人を後押しするような、強くなろうという人を助けるような、島国根性で足の引っ張るのは止めようという気風のあるまち、市に風土があるまちを目指そうという元気さがあれば嬉しい。これをもって、小学生や中学生に私たちが説明できるだろうか。次の世代に責任が負えるだろうか。元気さをお願いできればと思う。

## 田中 会長

委員の方から自由に意見をいただいている。その意見に対して、委員の方々のご意見もあるだろう。事務局への意見だけではなく、委員相互の意見交換もぜひお願いしたい。事務局の方で、いただいた意見にすぐ答えられるようなことがあれば発言をお願いする。

#### 委員

8 ページの(8)の所で、企業の力強さという形で、最近は大塚の社員教育が素晴らしい。ボランティアで1万円を町内会に出した。また、大塚社員が社会貢献をしているのを、会社内で登録しており、それで昇進するのかわからないが、大塚が社員を通じて社会貢献をしようというのがよく見えて、それが非常に嬉しい。企業の社会的責任と書いてあるが、30年も前から言われており、いろいろと実施してくれていると思う。社会的支援や貢献は企業も推しており、こういうことが言われていると遠慮せずに、企業も自由競争なので8ページの所に書いても良いのではないかと。

#### 田中 会長

具体的には8ページのどの辺りに文言を加えればよいのか。できれば、このページのこの部分に字句を入れたらよいのではないかと、具体的に言っていただければ事務局も検討しやすいのではないかと。

#### 事務局

先ほどご説明させていただいたのは、総合計画の序論であり、「時代の潮流と視点」という観点で、背景にあるフレーズ等を整理させていただいている。今後、元気が出る鳴門といった分野については、今後の基本構想や成長戦略分野での記載と考えているので、そちらでまたご審議をいただきたい。

#### 田中 会長

第1章「策定の趣旨」は、目的があり、役割と構成があり、第2章は総合計画策定のバックグラウンドがどうなっているかを分析整理して、こういう社会情勢の中で鳴門市は第六次総合計画をどうするかというのが次に出てくるという並びになっている。他にはいかがかと。

#### 委員

10 ページ(4)の記載について、長く住んでいる人には分かるが、「福永家」が何で重要文化財に指定されているかが抜けている。他の、「鳴門板野古墳群」や「板東俘虜収容所跡」には説明があるので、福永家にも説明を入れていただきたい。

#### 委員

6 ページ(2)に「少子化の進展」と書かれているが、何故少子化が進行し止まらないのかという、何が原因なのかという部分を、この箇所を考えていただけないか。もしこの部分で明確に(原因が)出なければ、これからの少子化を止められないのではないかという気がする。これが原因としてあるので、克服することにより、鳴門市の少子化を止めようではないかという方向にもっていくべきではないか。

#### 田中 会長

世界的に見れば人口は70億を超え、どんどん増えている。日本等先進国は少子化だ。いろいろと分析はなされているがこの文言では不十分だということで、検討させていただく。

#### 委員

鳴門公園の関係だが、11月19日に大麻町商工会主催で国生みフォーラムを開催する。兵庫県の商工会議所から世界遺産にしないかということで来ている。11月末の商工会の連合会へも挨拶に来ますと言ってきている。鳴門市ももっと世界遺産に前向きに行動していくということはないのか。

#### 田中 会長

審議の枠の中で言えば、序論部分でのディスカッションというよりも基本計画の方でご議論いただく方がいいように思う。それでは次に基本構想(案)について事務局から説明を求める。

(事務局より 基本構想(案) 将来都市像について 説明)

#### 田中 会長

項目別にご意見をいただきたい。まず、将来都市像についての考え方が、15 ページに示されているが意見はいかがか。

(意見なし)

#### 田中 会長

「結びあう絆が創る 笑顔と魅力うずまく鳴門」という将来都市像について、前回は「ともに創る」という表現が良いという意見もあったが、それは説明文の中に文言を入れる形とした。

10 年後の鳴門市の姿がイメージされるだろうか。それでは将来都市像は、原案でご承認いただいたということによるのか。

(異議なし) それでは基本目標について事務局より説明を求める。

(事務局より 基本構想(案) 基本目標について 説明)

#### 田中 会長

将来都市像が最初に説明され、それに向かう基本目標が 4 つあり、それぞれ説明をいただいた。何かご意見等はないか。

#### 委員

4 つとも、鳴門に住んでいて良かったという政策を書いているが、活性化するには子どもを中心としたイベントを開くのが一番いいのではないか。子どもを呼ぶということは親がついて来て、また孫を見るのに祖父母が来る。非常にたくさんの方が来るだろう。老人会に三世代交流イベントがあるが、私の地区では 70 人くらいが集まる。子どもの数は少なくなっているが、関連した方々が協力して集まってくれる。老人会の方をお願いしてグラウンドゴルフや囲碁ボールや大縄跳びなど子どもが遊ぶものをたくさん行くと、とても喜ぶし、地域間の人との交流の場にもなる。そういうイベントを開くのに、行政としてもある程度協力することをお願いしたい。それにより地域の活性化に繋がるのではないか。位置づけとしては基本目標の 2 である。

#### 委員

18 ページ基本目標 3 「しっかり安心・快適 住み良い まちづくり」について、市民意識調査で鳴門に感心を持たない、魅力がないと思う人が多いという結果が出ている中で、例えば子どもや高齢者、障がい者、女性、若い人にとって、安心・快適・住み良いまちづくりという視点に立つと、目標があまりストレートに繋がっていない気がする。彼らの思いを総合計画の中のどこに入れてあげられるのだろうか。「安全性や便利性、快適性といった生活の質を重視し」ということも大事だとは思いますが、もっと考え方を練った方が、子どもや高齢者、障がい者、女性にとって、市民一人ひとりにとって安心して快適で住み良いまちが実現できるというように感じる。その辺りが文章全体から読み取りにくい。

#### 委員

同じく基本目標 3 について、文章を読んでいて「人口減少が進み、地域主権改革の進展などにより地域間競争が高まるなか」という記述の、「地域間競争が高まる」とはどういう意味なのだろうか。字を見たときにどういう競争があり、その中でどういう風にしてまちづくりをするのか。私もよくわからないが、言い方をもう少し変えてもらいたい。

#### 事務局

全国的に人口減少が進むなかで、徳島県においては 3 町を除いて進んでおり、それぞれの市町村で独自の施策を展開して定住人口や交流人口をどう増やすか、それぞれの特性に応じた魅力づくり、住みやすいまちづくりを進めて地域の活性化を図っていくという取り組みが進んでいる。そうした部分について、地域間競争が高まっているという表現を使わせていただいている。成長戦略で「まちづくり」「魅力づくり」という視点で取り組みをより進めていき、定住人口の減少を極力抑え、また交流人口を増やして活性化を図ってきたいということだ。

#### 委員

単純に「魅力づくり」を強調するような形で、地域間競争も多少はあるかもしれないが、行政言葉のよう

な気がする。「より魅力あふれるまちづくり」等の表現の方が良い。

#### 委員

地域間競争を何のためにしているかというのと、「よそへ行くよりもうちに来た方がいきいき生きられる」ということで取り組んでいる。鳴門へ来たなら誰もがわくわくして暮らせるのだということ、ここで見せていかなければいけない。大変だというイメージしか出てこず、これを見た場合に市民が「しっかり安心・快適住み良いまち」というイメージに繋がらない。ここが一番大事なところで、本当に大胆に工夫が必要などころではないか。鳴門に魅力がないと、市民意識の中で言われている。それを克服するためには基本目標をしっかりと練り上げなければ、第六次総合計画は無いに等しいのではないか。そのくらい深刻に感じるところだ。

思いを述べているので、行政の方から私の発言に対してどう感じているかを述べていただきたい。

#### 委員

地域間競争という言葉は、生活の質をよくして、たくさんの方が来てくれるという感じの、まちづくりの生活的なところでは使わない。基本目標1の農林水産業や伝えたい魅力あるまちに対してキーワードとして使えばよいのではないか。基本目標1の「人口減少が進展し、経済情勢も不透明ななか、活力あふれる地域社会を形成することは、本市の豊富な地域資源の価値を高め、広くその魅力を伝えることにより、地域経済の活性化を図る」というところで、主には「創造」、作り上げていく産業面や工業など、成長産業のところで地域間競争をしている。

#### 田中 会長

世界の経済的な順位づけでは、GDP（国民総生産）が高いと経済発展して国民が幸せになると言えば語弊があるが、そういう指標で世界は競争している。ブータンという国は、GDPは幸せ度の指標として使わない。国民がブータンに住んでいて幸せに思うかどうかを、一番のメルクマール（指標）として国のガバナンス（統治）をやっていききたいと、来日されたブータン国王の発言にあり、素晴らしい考え方のリーダーだと思った。

それに先んじて、日本の各都道府県民の満足度、その土地に住んでいて満足かどうかを調べたデータがあり、新聞か何かで見た程度の情報だが、日本で一番満足度が高い都道府県は福井県であった。私の出身県である鳥取県は第四位であった。鳥取県は非常に貧乏県と言われており、たとえ資源が乏しいくても、そこに住む人の満足度、幸せ度が高ければなかなかのものだ。そう思ったこともあり、ブータン国王の発言に、私は非常に感じるどころがあった。

基本目標のところは、人間は衣食住足りて礼節を知るといものかもしれないが、経済的な問題だけを前面に出すのではなく、先ほどのいろいろな意見も検討材料とする。基本目標3の1行目あたりが議論になったが、文言というのは非常に大事であり、文言によって行政がどう考えているかを見られることもあり、検討させていただく。

#### 委員

鳴門で就職したいという学生が少ない。私は全県いろいろなところを見て回っているので、鳴門市では良い教育をしていると思っている。鳴門の幼稚園教育は素晴らしいし、先生方の研修も盛んで、私は良いと思う。だが、徳島市やその近辺の住民は、鳴門はへんぴで遠い、活性化していない、という見方をしている。この近辺の下板3町は人口も子どもも増え、若い人がそこへ揃って行く。どうしてだろうと思っていた。鳴門は非常に落ち着いた教育を小さい頃からしていると思う。産業の面でもいろいろとある鳴門の良さをPRしていかないと、市外の人にはそう思わない。偽装わかめや鳴門市の財政が破綻しかけているというような、マイナーで鳴門市を捉えており、それではいけない。悪い面は悪いと捉えないといけませんが、市民自身が鳴門市の良さに対して、大いに誇りを持ち、外へ向けて発信することが必要なのではないか。そういう点が足りていないのではないかと。

大型ショッピングセンターが幹線沿いにできて良いように新聞に書いている。藍住町は先見の明があり、線引きをしていなかったから大型店が多数来たと言う。だが、それにより小さな商店が全て潰れてしまい、鳴門市にもその影響が波及している。それが良いのだろうか。むしろ、鳴門市の大道の商店街などは、小さくても良いので光るものがあり、信頼できる専門店として建ち並び、それを大いに宣伝してほしい。今、よそに無く鳴門市が持っていると思うものを、教育や商工業、第一次産業などの良い面をどんどん発信してい

きたい。

保幼小の教員を育てているが、幼稚園を受けにくるという時に、徳島市周辺を受ける学生が多い。鳴門市には受けに行かないと言う。何故かと不思議に思っていた。鳴門市ほど落ち着いた素晴らしい幼稚園教育をしているところはない。その辺りを自信と誇りを持って発信していきたい。

#### 田中 会長

先ほどご意見のあった鳴門公園の世界遺産登録の件だが、どこにそういう文言が入るのかと見ていた。17 ページに、公園が対象となるかは別として、文化の問題が出てくる。あるいは、10 ページ(4)に伝統文化等があり、そこに文化の問題を入れられるかもしれない。鳴門公園に関して言えば、世界遺産登録は厳しいだろう。徳島県として、四国遍路八十八箇所を文化遺産にしようとしているが、それすらも困難であり、状況的には厳しいかと思う。検討させていただく。

#### 事務局

鳴門公園の世界遺産登録については、前回お示しさせていただいた分野別基本計画の 70 ページに「観光・交流のまちづくり」という箇所があり、その現況と課題で「鳴門海峡の世界遺産化や国指定文化財への登録等をめざした取り組みを図ることが必要です」という記述がある。

(小休憩)

#### 委員

先ほど意見のあった子どものイベントに関連するが、17 ページに「子どもたちの笑顔と歓声」という記述がある。国体で県が最下位であった。鳴門市は元々スポーツが盛んな所であり、野球や陸上、水泳、弓などもあり、県下で大きなグラウンドがある。スポーツでもっと子どもの顔が見えるというか、スポーツがもともと強いところであり、県内でも貢献しているが、特に中学生や高校生など若い人は頑張っている。国体で頑張ろうということなのだが、我々も手伝わないといけない。

#### 田中 会長

関連して、徳島県立鳴門渦潮高等学校というスポーツ専門の学科を持つ高等学校が鳴門市に作られ、鳴門教育大学と連携協定を結んでいる。検討させていただく。

(事務局より ②基本構想(案) 将来目標人口、土地利用の方針、地域別まちづくりについて 説明)

#### 田中 会長

基本構想(案)の6番目にまちづくりの施策大綱として、全体像が示されている。まちづくりの目次のようなものであり、前回ご審議いただいた内容に将来都市像を付け加え、こういう大綱になるというものを図示している。では、何かご意見等あればどうぞ。

#### 委員

24 ページの(3)里浦町等の箇所に「農の景観」という言葉があるが、初めて聞いた。これは「農村地域の景観」を指しているのか。こういう言葉があるのか。

#### 事務局

土地利用の方針については、21 ページに記載しているように、本年3月に都市計画マスタープランを策定しており、その中より地区別に抜粋をさせていただいている。ご指摘の「農の景観」という言葉については、ただちには確認ができかねるので、後日ご回答させていただく。

#### 委員

24 ページの(4)鳴門町に「農業の漁業」とあり、文言がおかしいので直していただきたい。

#### 事務局

誤字であり、「農業と漁業」が正しい。

## 委員

21 ページ(2)一般居住ゾーンの箇所の「セットバック」とあるが、どういう意味か。

## 事務局

セットバックとは、建築基準法に基づき基準があるのだが、建築物の外壁を敷地の境界線よりも後退させて建てるということである。

## 平野 副市長

建築基準法で、家を建てる際に公道に接続するという所で、必要な道路境界を確保するために、よく使われるのは中心後退という形で、道路の中心からお互いが境界を後ろへ引くことをセットバックという。狭い路地の両側に家が建っている場合、路地を広く保つために、お互いが中心から均等に距離を置こうということで、公共用地を広く取っていくという専門的な表現としてセットバックという用語がある。中心後退をして、必要な幅員を確保するという解釈でよろしいかと思われる。

## 委員

撫養街道沿いのことか。撫養街道を残そうという意図ではないのか。

## 平野 副市長

地域により、まちづくりの計画やいろいろな様態により、どこの地域をどういう形で施策を取るかは、改めでの協議となる。具体的に撫養街道が該当するかは把握していないが、該当地区に対してはそのような対策が必要であるということである。例えば防災等の面で、現状で公共的な部分での確保に障害が考えられる場合にお互いに引こうという意味での施策である。

## 委員

もう少し分かりやすく、ところで鳴門にポケットパークはあるのか。

## 田中 会長

総合計画はウェブサイト掲載、市民の方が読まれるのだろう。わかりにくい単語については、注意書きをしていただくと理解しやすい。検討をお願いします。

## 事務局

最終的に、資料として用語解説でわかりづらいものについてはまとめさせていただく。

## 委員

21 ページの最初の 5 行について、土地利用は町ごとにあるが、大麻町や大津町の人は視野が下板 3 町の方にあり、私も松茂や藍住にとっても興味がある。5、6 年前には、将来的には鳴門市が合併すると言っていた。将来的には合併の可能性もあるので「広域的な」ということを少し入れたいと思う。特に商店街であれば、北島へ行ったりもする。しかし、地元を優先しなければいけないのは確かであり、地元の産品を買えということになる。そういうことを構想していたということ、記載した方がよい。

## 田中 会長

私が資料を拝見したとき、危惧したのは 20 ページの将来目標人口である。これには下げ止まるという予測がない。交流人口で若干上乘せた図になっている。10 年間はこの予測で計画を立てるが、その先のことを考えるとどうなのだろうか。それはこの先の大きな問題だ。

(事務局より ③前期基本計画成長戦略(案)について 説明)

## 田中 会長

前期基本計画の第一章にあたる、3 つの成長戦略について説明をいただいた。成長戦略のタイトルだが、前回いろいろとご意見をいただき、修正させていただいている。何か意見等があればどうぞ。

## 委員

41 ページ⑥男女共同参画社会の実現について、2012 年 2 月に鳴門市が男女共同参画宣言都市に内閣府が

ら認定されるので、その文言を入れてはどうか。重要な宣言都市なのでぜひ入れてもらいたい。それに伴い、いろいろな施策もあるのではないか。

#### 事務局

その文言を加える。

#### 委員

37 ページ⑤介護予防事業の拡充・推進について、市で介護予防事業の見直しをした時期があったと思う。その時が大事かということで、初めて介護予防の効果が大きいという意見があった。もっと広く、高齢者の健康増進と介護予防について、参加をしていただける枠組みを作っていたらよい。「老人クラブと総合型地域スポーツクラブなど」と、2つが記載されているが、例えばボランティアグループやクラブなどで、皆さんの生きがいづくりや健康づくりに励んでいる。趣味活動などをされている高齢者の方が結構おられるが、そうした方々は生きがいを持って、いろいろな芸術や写真など幅広く活動されている。それが生きがいづくりと健康づくりを進めていくことになる。目的を持ち、一生懸命活動しておられる方々が、高齢者自らが進んで健康増進に取り組んでいる姿であろうし、ひいては介護予防を実践されている姿だ。そういうことからすれば、そうした分野にも目を向け、評価をする形で成長戦略の中に取り上げていくべきである。

全市的に介護給付費が広がっていけば大変な状況が出てくるので、そのような状態に陥らないように、市民一人ひとりが介護予防に努め、必要な人には積極的に使えばよいと思うが、無駄な使い方はしないよう、自ら健康づくりに励むという気概を持つべきだ。そのことに全市的に取り組むならば、鳴門市介護予防推進会や推進協議会というようなものを作り、医療関係者や文化の関係者、高齢者のスポーツ推進者、就労の関係者が一つのテーブルを囲み、一緒になり高齢者の介護予防事業を同じ意識の中ですすめていくという枠組みを作ってはどうか。できればそういうことを考えていただきたい。

#### 委員

31 ページ③鳴門ブランドの農業・漁業のところに、ぜひ「地産地消」を入れていただけるとありがたい。また農業・漁業とは別だが、コカ・コーラと大塚製菓の自動販売機が並んでいる場合、私は2回に1回は大塚製菓の自動販売機で購入する。これも地産地消でないか。そういう意識が大事ではないだろうか。

#### 委員

34 ページ①危機管理・防災体制の強化という箇所8行目に「災害情報をはじめ災害に関連するさまざまな情報伝達が可能となる防災行政無線を整備します」とある。整備をするにあたり、お願いしたいことがある。現在、消防団詰所にサイレンと放送用マイクがあるが、非常に聞こえにくいという意見が各地区にある。聞こえないから窓を開けて聞くが、それでもよく聞こえない。一番よく聞こえるのは「ただいまのサイレンは試験放送のサイレンです」という部分で、ゆっくり言っているからだ。どこが火事なので出動しろ、という指示はよくわからない。火事が起きているのにゆっくり言えというのは無理な話かもしれないが、よく聞こえる装置に改善してほしい。

また、35 ページ⑦公共下水道事業の推進と水洗化率の向上について、現在下水道を共用しているところがあるが、加入率はどれくらいか。費用が高いという意見をよく聞く。

#### 谷 経済建設部長

現在、下水道の加入率は17～18%程度である。費用については、今年いろいろと施策を打った。これまで初年度だけ6万円、2年度は4万円ということをしてきたが、3年目の方についても4万円支給している。なお、将来に向かって他の近隣町村を参考に協議をさせていただきたい。

#### 委員

総合計画と直接は関係ないが、質問したい。テレビ鳴門で市の広報番組があるが、人により聞こえ方が大きく異なる。それを直していただきたい。綺麗に聞こえる人と、雑音のように聞こえる人などさまざまである。レベルというものがあるので、声の調子を揃えていただきたい。

#### 三木 企画総務部副部長

確かに、聞きづらいという声も挙がっているので、市からテレビ鳴門へよく相談させていただき、改善を

図りたい。

### 田中 会長

災害が起こった時に通信不通はよく起こる。衛星電話が非常に便利だということで、鳴門教育大学では4台（大学1台、付属学校3台）購入した。衛星電話の普及率等の対応はどうか。1台の費用は24万円である。衛星電話であれば、孤立せずに情報をやりとりできる。今はどこもが衛星電話を設置している状況だ。鳴門市もその辺りを検討していただきたい。災害のところの情報伝達に記載がなかったのでお尋ねした。

### 三木 企画総務部副部長

災害情報については、現在国が非常時に一斉で鳴らすJ-ALERT（全国瞬時警報システム）でまず受けて、それを担当部署や市民の皆さんやエリアメールでお伝えすることになっている。鳴門市独自で衛星電話を、という話は、今後、防災行政無線の整備という点も踏まえて検討する時期がくるのではないかと思うが、現段階では国の全国瞬時警報システムを利用したなかでの対応となっている。

### 田中 会長

被害を受けると、携帯電話を含めた全ての電気通信機能が麻痺する。こちらの被害状況を伝えようとしても伝えられない状況が発生する。これまではこの大学もそうしたものを持っていなかったが、東日本大震災で衛星電話が活躍したこともあり、各大学で最低1台はということで、それぞれの部署に設置して、被害を受けて孤立して電話も何も通じないという場合に衛星電話は通じるということで、注文が殺到している。鳴門教育大学もようやく入手したという経緯があった。ご参考までに。

### 委員

1点目は、「地域間競争」という言葉が戦略1と3に入っており、私は戦略1の方は大体賛成である。39ページ戦略3の6行目にあるが、こちらはどうか。まちづくり、むらづくりや、教育がかなり入っているが、教育は競争したらいい。

2点目は、環境のことだ。35ページの④循環型社会の箇所、29年までを期間とする基本計画ができたのか。24年度にごみを延長する計画があるのか。過去10年くらいは減っていないという気がしている。目標を作ってもらえたらいい。

松山のリサイクル施設の、まつやま Re・再来館に行ったのだが、広域の3億円でしているが、人口30万人という市でやっているの、鳴門市の10倍くらいの部屋があった。特に環境問題に関しては広域でできればいい。病院の跡地にしたらいい。自治負担もなく、3億円の値打ちがある。タンスや机等、リサイクルの資源を集めるのにセンターの職員も非常に協力的であったようだ。販売もするそうだが、6割くらいは売れる。修繕するのは大工やシルバーの方であり、またシルバーの方は紙すきや襖、ミシン等の作業をしていた。売買する際には障がい者の方も荷物を運ぶと聞いた。業者には了解を取っているということ聞いたが、再利用・再生が広域的にもできれば良いだろう。

### 田中 会長

大学の例を取ると、平成16年に法人化されたが、法人化第1期は競争により大学の機能を強化する。第2期になると、競争ではなく連携である。大学間連携により、お互いの機能を推進しようという方向に転換している。文部科学省あたりも、連携による機能強化であれば予算をつけることを考えようと言っている。単独で良い取り組みをしても、個別大学につけるよりは、各大学が連携してより機能を高めることに主眼を置く方向に行っている。

地域の発展も、他の地域との競争というよりは、他の地域と連携できるところをいかに見つけて、お互いがそれぞれの土地の特色を活かして発展するという方向に行くのではないかと感じた。ご意見をいただいたので、「地域間競争」という文言については事務局に考えていただきたい。

また、29ページの「だれにも知ってもらえる魅力づくり」だが、「だれにも」で良いのだろうか。原案では「だれにも」であった。意味が違ってくるのではないか。

### 三木 企画総務部副部長

戦略1の見出しについては、「だれもが知る」ではなく「知ってもらえる」と目線を上げた上でこれからの姿勢を表す方が良く考えたものである。「だれにも」と「だれにも」については、策定委員会でもどちらが良いかという議論はあった。断定的には言えないのだが、「だれにも」は後に続く言葉が否定的な場合があ

る。「だれにも」であっても否定的な部分は残るが、言葉の感じから「だれにも」ということにしているが、決定的なものではないと考えている。

#### 田中 会長

分かりました。ここは原案どおりでよいと思われる。

#### 委員

6 ページと 20 ページに人口のグラフが入っているが、鳴門の努力してきたブランドの表が掲載されていない。スペースの関係で無理があるのかもしれないが、これが鳴門ブランドだと、頑張ってきたと、視覚的に訴えるものも欲しい。全体を見て暗い感じを受ける。例えば、NPO 法人の数やこれが全国で 1 番だというようなものがグラフであれば非常に明るいし、これからも目標を新しく立てて頑張るといことがあればよい。

#### 委員

先ほど全国満足度という話があったが、鳴門市の居住面積に対して人口がどれくらいあり、ひとり辺りの居住空間がどれくらいであり、近隣自治体と比較して、鳴門市の方が、居住面積が広い、というような幸せ度を見せていただける図が欲しい。レーダーチャート等、鳴門の全体像がわかるような表が欲しい。

#### 事務局

現在は文章だけであり、視覚的に非常に見づらい文書である。ブランドやレーダーチャートで見る鳴門市のような統計的なものについても、今後盛り込んでいきたい。都市利用についても、マスタープランを参考に折り込み、見やすくわかりやすい総合計画にしたい。

人口フレームの話もあったが、成長戦略 1、2、3 として、魅力づくり、まちづくり、人づくりと 3 本建てている。20 ページの将来目標人口があるが、これは市民満足度や豊かさといった指標があるが、自治体の取り組んでいく指標については人口を使っている。推計人口の 55,261 人と目標人口の 57,000 人の差となる 1,739 人は、成長戦略 2 のまちづくりの雇用環境や安全・安心の危機管理対策、子育て環境等の取り組みにより、定住人口を減らさずに埋めていこうということである。現在の人口 61,513 人が 57,000 人になっているが、4,500 人くらいが減ることにより地域経済の活力低下がそのままいいのかというと、そうではない。こちらについては成長戦略 1 の魅力づくりにより、観光や文化、スポーツ、農林水産業という中で様々な取り組みを進めることにより、鳴門に大勢の人が来るよう交流人口を増やして、地域経済の活性化を図っていく。そのためには成長戦略 3 の人づくりの分野で市民力、地域力というバックアップを元に、今後 10 年間こうした方向性で取り組んでいきたい。そうした内容の成長戦略である。